令和元年１１月５日

長与町議会議長　山口　憲一郎 様

議会広報広聴常任委員会
委員長　金子　恵

委 員 会 調 査 報 告 書

令和元年９月２７日派遣承認された調査事件について、別紙のとおり、会議規則第 77 条の規定により報告します。

《別紙》

１ 調査月日　令和元年１０月１５日～１７日（３日間）

２ 調査場所及び調査事件（所管事務調査事項）

・愛知県岩倉市議会
　議会サポーター制度について・市民参加の取組について
・愛知県瀬戸市議会
　議会と学生の連携について
・愛知県四日市市
　議会サポーター制度について

3. 派遣委員

金子　恵、堤 理志 、八木亮三、松林　敏
西田　健、安部　都、安藤 克彦 、吉岡 清彦

４. 調査の結果または概要（意見）

【　愛知県岩倉市議会 】

人口　４７，８３９人（令和元年６月）

地理　濃尾平野の中に位置し、犬山扇状地の扇端にあたる。標高は 8～12 メートルで、市の中心部を北から南へゆっくりと五条川が流れている。名古屋市と犬山市を結ぶ名鉄犬山線が通り、両市のほぼ中間に位置している。市の最北部を名神高速道路が通り、東の小牧 IC、西の一宮 IC のほぼ中間でもある。 そのため市内には流通関係の拠点が多数存在する。

議員定数　１５人

◇　議会サポーター制度について　◇

職務　：　1、本会議、委員会を傍聴してもらい。気付いた点、意見、提言を「市議会サポーターの声」として提出してもらう。
2、議会との意見交換会に出席してもらう。
3、議長依頼のアンケート等に回答してもらう。

報償　：　謝礼として３０００円相当のクオカードを渡す。

傍聴の案内　：　各定例会日程を　送付している。

傍聴の方法　：　「サポーター証」を職員に提示

意見等の提出方法　：　郵送・FAX・E メール

◇　市民参加の取組について　◇

議会報告会

・ポスター、回覧等で周知の上、実施

・予算（案）に関し、事前に報告会の中で説明し、住民の意見、提言を反映するという仕組みづくりをしている。

・予算案の中で答えられないものは、各議員が委員会で質問している。

意見交換会

・相手の日程に合わせ、市民団体等の会議などの前に時間をもらい、短時間で開催している。

・議員がいない行政区の「生の声」を聞くというスタンス。

・市民センターの人にファシリテーターをしてもらい、４テーブルに分かれワールドカフェ方式で実施。

【　愛知県瀬戸市議会　】

人口　　１２７，６３５人（令和元年６月）

地理　　尾張丘陵の一角に位置し、中心部を東西に瀬戸川が流れ、旧市街地や官公庁・鉄道などが集中する。北部・東部・南東部は山地である。

名古屋市中心部から北東に約 18 km の場所にあり、名鉄瀬戸線で名古屋市中心部と結ばれている。また市内西部を愛知環状鉄道が縦断している。このため岡崎市や豊田市、春日井市へのアクセスも良い。東海環状自動車道のせと品野 IC・せと赤津 IC があり、工業団地や住宅地の開発が進んでおり、市内北西部ではみずの坂の新興住宅地として開発が進んでいる。しかし、中心市街地では高齢化率が高く、人口が減少傾向にあることから小中学校の統廃合なども議論されている。

議員定数　　２６人

◇　議会と学生の連携について　◇

学生がどのように政治参加すればよいかわからない。という課題があった。

大学コンソーシアムせと　＝　瀬戸市と近隣５大学が協働し、新しい文化活動を作り出し、地域に貢献していくことを目指した。

その文化創造プロジェクトの一環として、議会からの提案で実施。

きっかけ：議会から若者の政治参加を促進させる。
　　ほとんどの議員が賛成、前向きだった。

住民の声　⇒　議会として聞く。　⇒　　政策提言

若者の気付き　⇒　政策提言　⇒　議会不振の払拭へ繋げる。

大学の単位に繋げているかは不明だが、ゼミ活動の一環として実施している。

1. プロジェクト名　　届け！！！私たちの声・まちづくりの想い
～若者の政治参加を目指して～
2. プロジェクトの完了年月日　　平成３０年２月２３日
3. プロジェクト経費交付決定額　３６０，３００円（市　2 分の１、大学　2 分の 1）
決算額　２９６，７６７円（議会としての出費なし）
※　交通費、周知用チラシ、動画作成指導謝礼

議会としてできること。　⇒　政治参加の重要性を伝える。

今後の取組

・高校生議会の継続
・小学生　＝　議場見学　⇒　今後の瀬戸市を考えてきてもらう。⇒　代表者が発表

【　三重県四日市市　】

人口　　３１０，１４５人（令和元年６月）

地理　　中京工業地帯の代表的な工業都市である。近鉄名古屋線などが通ることから名古屋市への通勤・通学者がおり、名古屋のベッドタウン化している郊外の団地は昭和の大合併で編入された地域で、三重団地（三重地区）、桜台（桜地区）、三滝台（川島地区）、あかつき台（八郷地区）など、市内西部に位置する地域が多い。一方、三重県北勢地域の中心都市である為三重郡の各町、桑名市、鈴鹿市、亀山市など近隣の市町から当市へ通勤・通学する者も多く、昼夜間人口比率は 100%を超えている。

2000 年（平成 12 年）11 月 1 日の制度運用開始とともに特例市に指定された。2005 年（平成 17 年）2 月 7 日に隣接する三重郡楠町を平成の大合併による市町村合併で編入したことで人口が 30 万人を超えたため中核市移行を目指しているが、大矢知地区の産業廃棄物問題が解決しないため移行の目途が立っていない。中核市移行の準備段階として、2008 年（平成 20 年）4 月 1 日に保健所政令市に指定された。

1960 年代から 1970 年代にかけて工場の排煙による大気汚染により四日市ぜんそくの発生地として悪名を轟かせていたが、現在は法整備や汚染防止技術向上などの対策が格段に進み、工業地帯周辺の大気状態も良好になっている。 郊外には田園や茶畑が広がる豊かな自然が望める。また、江戸時代から蜃気楼が見られたことでも知られている。

議員定数　３４人

◇　議会サポーター制度について　◇

　平成２９年度から議会サポーター制度の検討を重ね、平成３０年度の新規事業となった。議会サポーターの職務は会議を傍聴し、会議の運営に関する 意見、議会だよりやホームページに関する意見、議長が依頼する調査事項への回答、市議 会議員との意見交換会への参加などとし、謝礼を支払っている。無作為抽出により９人、 公募により１３人の応募があった。サポーターからの意見で対応できるものはすぐに対応するようにしている。

人選＝　各地域から推薦をしてもらう。（地区市民センターの館長に依頼）
　　四日市大学に、市議会モニターとして推薦を依頼
⇓　　一般公募　１０人程度
モニター研修会　開催
⇓
広報広聴委員との意見交換会
⇓
年度末、継続意向確認及び新規モニターの推薦依頼等実施
市議会モニター活動に関するアンケート実施

職務
・本会議、委員会を傍聴し、意見を文書で提出
・ケーブルテレビで中継している議会の代表・一般質問、インターネットで中継している様子など、可能な限り視聴し、意見を文書で提出
・研修会、意見交換会に出席し、意見を述べる。
・随時、議会運営等に関する意見や提言を文書で提出
・議長が依頼した調査事項等に回答

報酬　報酬は支給していないが、年度末に図書カード３，０００円分進呈
　　実際に、意見等を一度も提出していないモニターへも進呈している。

※　定例会後、議案に対する意見を募集する。
　　出された意見は、各常任委員長で調査するなどの活用を図っている。

5.　所見
【委員長　金子　恵】
〇愛知県岩倉市議会
　議会サポーターの 職務は会議を傍聴し、会議の運営に関する意見、議会だよりやホームページに関する意見、 議長が依頼する調査事項への回答、市議会議員との意見交換会への参加などとし、謝礼を支払っている。委員会代表質問も市民の声を政策形成サイクルに組み

込む珍しい取り組みと感じた。本町は現在、議会広報モニターとして募集を行っているが、今後は議会全体に意見を依頼する「議会モニター」設置を住民参加の観点から進めることができればと感じた。

〇愛知県瀬戸市

以前、大学との連携を図るとした取組をしたが、結論はでなかったという経緯がある。瀬戸市では、大学のゼミ活動を活用し、連携を図る取組を実施した。その結果を委員会等で提言するなど、活用の場を広げている。今後、本町においても若者の意見を聞く場の一つとして、本町に取り入れやすい方法を考えることも議会の役割ではないかと感じた。

〇愛知県四日市市

議会への市民参加の取り組みとして、市民の中から市議会モニターとして４０人程度を選考し、本会議、常任委員会等を可能な限り傍聴またはテレビ・インターネット中継により視聴してもらい、意見や提言をもらう「市議会モニター」制度を、平成１６年度から導入している。四日市市議会では、このような議会活性化の取り組みが評価され、第１回マニフェスト大賞審査委員会特別賞、第９回マニフェスト大賞優秀成果賞を受賞している。

一概に住民参加がすぐに議会活動に役立つかは、議会自体の考えにもよるかと思うが、様々な取り組みの中で、身近に感じられる議会に前進することが、基本条例に則った取り組みではないかと感じたところである。

【副委員長　堤　理志】

〇愛知県岩倉市議会

本町議会は議会広報についてのモニター制度を実施しているが、岩倉市議会では議会活動全体について意見を交わし、住民の意見を取り入れる議会サポーター制度を実施していた。

無作為に抽出した市民と、公募で構成されたものであった。無作為抽出という手法も検討に値するのではないかと感じた。

本町議会は議会モニターに対する報酬、謝礼は支出していないが、大変労力のいる仕事をお願いしているので、何らかの謝礼的なものは必要と思う。岩倉市議会は、サポーターに対し 3000 円相当の商品券（クオカード）を支給しているとの事であった。このようなことも充分検討すべきと考える。

ふれあいトークで出された意見や質問に対し議会の対応だけでなく、執行機関の回答も記載している点は参考とすべきである。

議会報告会、ふれあいトークは、市民の集会に合わせ、議会がそこへ出向く取り組みもなされており、こうした手法も本町議会として検討するに値するのではないかと感じた。

※研修項目ではないが、傍聴席での写真撮影、動画撮影、録音等に対する制限は設けていないとのことであった。開かれた議会、議会改革の姿勢として素晴らしいと感じた。（ちなみに芽室町議会も議事を妨害しなければ傍聴について何ら制限を設けていない）。

〇愛知県瀬戸市議会
議会と学生の連携について
　議会事務局職員から、議会として若者へアプローチをしてはどうかと提案があり、これを議会が受け止め実践したことが始まりであった。
議員と大学生がチームを作り地域を見てまわり、若い人の「気づき」を議会での政策提言に繋げ、議会や政治への関心へ結びついていくとの事であった。
学生との連携は、負荷、エネルギーが必要なため、継続性については課題があるとのことであった。今後については「高校生議会」など、別の形で若者の政治参加を検討していくとのことであった。
　今回の研修で、議会事務局と議員の連携、そして若者の政治参加を追求していく取り組み、議会改革の心構えなど参考になる点は多かった。

〇三重県四日市市議会
議会モニター制度について
　議会モニターはなり手自体は少ないが、一端なってもらえば関心がなかった人が新たに議会やまちづくりに関心を持っていただけるメリットがあると説明があり、「なるほど」と感じた。
　議会モニターからの意見をもとに改善した事項の文書が作成されており、このような形でモニターの意見がどのように議会制度やまちづくりに役立ったかを「見える化」すると言う事は有意義だと感じた。
モニターの報酬は支給をしていないが、謝礼として図書カードを渡しているとのことであった。

【委員　八木　亮三】
　長与町議会広報広聴常任委員会として、地方議会と住民との距離を縮め、信頼関係を築き、ひいては住民のためのまちづくりを実現するために積極的に住民と関わっていく取組を行っている先進自治体を訪問し調査しました。
　一日目の愛知県岩倉市は名古屋市中心部から北に電車で 20 分ほどで人口約 48000 人、議員数が 15 人と長与と環境が近いと言える市で、市民との意見交換会・議会報告会を頻繁に行っているのに加え、昨年度から「議会サポーター制度」を議会基本条例に盛り込んだ上で設置し、議会の現場に対しての意見を積極的に求めるなど市民と議会との距離を縮める工夫をされていましたが、この議会サポーター設置までには埼玉県戸田市の議会モニター制度、長野県飯綱町の政策サポーター制度などを参考にしたとのことでしたので、それらの事例についても今後個人的に確認したいと思います。
　岩倉市の議会サポーター制度は、できるだけ傍聴してもらうことを前提に、名称の通りあくまで議会運営など議会に対しての意見を求めるものということで、見学させていただいた議場も、傍聴者席（議会サポーターも入れる最前列の記者席）が議員席と同じ高さにあり手が届くほど近く、休憩中に傍聴者と議員が話す姿もよく見られるということで、ハード、ソ

フトの両面で開かれた議会を体現していることを感じました。
岩倉市議会が傍聴を重視し、傍聴者を増やそうとしている姿勢の表れとして、傍聴にあたり記名などの必要がなく、写真・動画の撮影、録音などが自由な上、動画の生配信などもまったく規制していないという話には、その先進性と自由度に驚きました。確かに、身分確認の伴わない記名などはいたずらに議会（事務局）に個人情報管理という業務を発生させるだけでほとんど意味を持ちませんので、本町でも取り止めを検討してよいかと思います。
割合的に高齢の方が多い点と、謝礼を最大 50 名分まで想定しているものの、実際には成り手が 20 名前後にとどまっている点などの課題があるようでした。この謝礼ですが、サポーターの方へ３０００円分のクオカードを差し上げているということで、これは時間と労力をお使いいただいていることへの当然の報酬だと思いますので、長与町議会の広報モニターの皆様へも実施を検討すべきと思います。

瀬戸市は名古屋の東にあるセトモノ発祥の地で人口が約 13 万人、議員数 26 名で、積極的な情報開示や学生と協同での「政策資源」の探求などの取組が全国的にも注目されています。
学生との意見交換やフィールドワークを行い若者の政治参加を促進する取組は、瀬戸市と近隣の 5 大学が共同で行う「大学コンソーシアムせと」という事業の中の、学生と行政が連携しての地域貢献プロジェクトの一つで、平成 29 年度に一度だけ行われた試みということでした。市議会（事務局）側からの提案とのことでしたが、大学（学生）側にも何らかのメリットがなければ成立しないこともあり、連携は実際には１大学とだけだったとのことで、外部組織との連携の難しさと、そのような連携・協力を求める場合に先方への何らかのメリットを考えること、こちらの都合を押し付けないことの重要性を感じました。そのような点を注意しながらであれば、将来を担う若者の意見をまちづくりに反映するために、県立大学のある長与町としても大いに参考になる事例でした。

四日市市は三重県の中では愛知県寄りの北部の、伊勢湾に面した人口 30 万人を超える工業都市で、５０年ほど前は公害問題で全国に知られましたが、現在は自然も豊かで住みやすい市となっているようでした。市議会は議員数 34 名で、頻繁に市民の意見を聞き、それを基にしながら議会内に複数の政策研究会を立ち上げて実際に多数の条例を提案・制定している積極性と実行力のある議会でした。
議会モニター制度については、岩倉市の議会サポーターと同様、傍聴や広報で議会を見聞きしていただき、主に議会の運営や制度面に意見を寄せてもらうというもので、実際の意見から、傍聴手続きの簡素化や傍聴者への資料配布など、様々な改善を行っていました。
この議会モニター制度にも報酬の面など参考にすべき点はありましたが、あくまで議会への市民参加のほんの一部という感じで、議会報告会やシティミーティングという市民との対話、さらにはそれらと別に、特に市民の関心事となりそうな議案を定例議会前にあらかじめホームページへ掲載し一般の方から広く意見を求めるなどの取組も行い、市民の意見を全議員で共有した上で、政策の提言・立案までもっていくべきものは課題ごとに政策研究会を作り議

案にして提出したり、提言・立案までは行わないと判断したものについても議論の上でその結果を公表したりなど、市民とともに歩む姿勢とその本気度そのものを大いに参考にすべきと思いました。

以上の調査結果を踏まえ、長与町議会広報広聴常任委員会として、より積極的な住民参加とその反映を検討していきたいと思います。

【委員　松林　敏】
〇愛知県岩倉市
岩倉市は人口が 4 万 8 千人程度で、議員定数が１５議席ということで、規模は長与に近いと感じました。
議会のサポーター制度をおこなっているということでしたが、１００名程度が目標で、いまの所 20 名程度で推移しているようで、まだこれから何かしらの工夫が必要な状況なのかなと感じました。
無作為に抽出された市民 500 名に依頼をして、引き受けて頂ける方が 10 名程度、公募が 10 名程度ということでした。長与町でも同じ手法で募集をかければ、これに近い数字になると感じました。
ふれあいトークという意見交換会を、議会報告会と別に開催し、地区単位であったり、農協や商工会の団体との意見交換会を 30 年度は 12 回も開催されているとのことでした。トークの内容も見させていただきましたが、市民の率直な意見が出されていて、市民が意見を言う場を設けることは大切だと感じました。

〇愛知県瀬戸市
瀬戸市は人口 13 万人程度で、市内に５つの大学のキャンパスがありました。そこで、瀬戸市のまちづくり協働課が、大学・学生と新しい文化創造プロジェクトとして、大学コンソーシアムせとを立ち上げて、大学・学生と行政の連携を深め、双方のメリットになるような事業を創造し行っていくというしくみを作っていました。
そのプロジェクトのひとつとして、平成２９年度に学生と一部の議員が、”届け！私たちの声・まちづくりの想い”を立ち上げ、学生目線からの市政への意見を聞いたりして、若者の政治参加を目指すということでした。
大学生の政治参加という点ではかなり成功しているように見えましたが、次年度の募集は集まらず、単年度で終わったことが残念に思いました。継続的に行えるような仕組みを考えることが大事だと感じました。

〇三重県四日市市
四日市市の議会モニターの募集の方法が、地区コミュニティから２人の推薦、一般公募 10 名程度、四日市大学の大学生の推薦の依頼が５名程度と、バランスが考えられていて、長年のノウハウの蓄積を感じさせられるもので、とても好感が持てました。モニターの仕事も決

して重たいものではなく、むしろ、議会モニターは記者席に座ることができるとか、意見や提言を文書で提出するなど、議会モニターならではの権利を与えることが、議会モニターさんの活動のモチベーションにつながっているのではないかと感じました。

【委員　西田　健】
〇愛知県岩倉市議会
　市民からの要望・提言やさまざまな意見を広く聴取することを目的に、議会サポーター制度を導入している。
サポーターの年齢構成が 10 代～70 代までと幅広く構成されていることから、多種多様な意見を吸い上げるという意味で参考となった。
　市民との対話を重視し積極的な対話集会を実施していた。本町においても実施方法について検討する余地があると感じた。

〇愛知県瀬戸市議会
　議会と学生の連携を積極的取り組んでいる。
瀬戸市近隣の五つの大学と連携し、プロジェクト名「若者の政治参加を目指して」をテーマに 1 年間取り組んだ成果について説明を受けた。
　<主な活動内容>
　　・学生と議員の勉強会　：議会を知ろう、瀬戸を知ろうをテーマに勉強会実施
　　・議会の様子について学生が You Tube で視聴。
　　・学生と議員の意見交換会を実施。
　　・議員が学生の提案を受けて一般質問を行った。
　本町においても議会と若者との距離感を縮める意味で、ふれあい活動の検討が必要であると感じた。ただ学生の参加が徐々に減少していたのが気になった。

〇三重県四日市市議会
　議会モニター制度を平成 16 年に発足し以来 15 年間継続している。
活動期間が長い分、市民意見のフィードバックのやり方が確立しており参考となった。
年齢構成は、60 代・70 代が半数以上をしめており、若い世代をどう入れ込むかに課題があると感じた。ただ高校生議会を実施するなど、若い世代へのアプローチする積極性が感じられた。参考となった。

【委員　安部　都】
①岩倉市議会での研修項目は、「議会サポーター制度について、市民参加の取組みについて」
②瀬戸市議会では、「議会と学生の連携について」
③四日市市議会では、「議会モニター制度について」　研修・視察を行わせて頂いた。
　何れの議会においても、議会と市民との交流がかなり積極的に行われ、市民の意見を議会に反映させ政策提言に向け、市民中心の議会運営を行っていることに感動した。

条例制定までは、実現できないなどの課題はあったが、岩倉市議会では、議会報告会を年に３回、住民との意見交換会を年に１２回も実施をして、当局に対し要望、政策提言を積極的に実施していた。サポーター制度を設置し、公募や年代別抽出を行い、議会運営に反映していた。議会傍聴人は、自由に写真撮影や動画撮影・録音することが出来、開かれた市民のための議会であることを証明していたようだ。参考にするべき課題であると感じた。

瀬戸市議会は、大学コンソーシアムせと「新しい文化創造プロジェクト」を設置し、議員と学生のフィールドワークを行い、積極的に学生の声を聞き政策資源として取り入れていた。想像以上に成果があったと言われ、議会事務局とプロジェクトメンバーが中心となり、議会改革の牽引となり結果を出していた。又、議員への資質向上を行うことが大事で、３年間は大学教授や専門家を年に３回呼び、その後は年に１回の勉強会を開催している。知識や知見はすぐには結果に結びつかず、繰り返し反復することで定着し結果として現れると言われた言葉が印象的だった。

四日市市議会では、高校生議会を開催し、議会報告会やシティ・ミーティングなど毎年実施していた。モニター制度を設置し、推薦、公募から約５０人を選出。ほとんどが、６０歳～７０歳代が多かった。謝礼として年度末に記念品を進呈していた。議会報告会は、会場ごと４つの常任委員会にて二日間で実施していたのは、印象深く感じた。議会改革に関して、わかりやすく詳細に資料をまとめており非常に分かりやすい説明だった。３カ所において大変学びが多い視察で新しい発見もあり今後、本議会でも市民の意見を参考に議会改革や広報広聴に役に立てたいと思う。

【委員　安藤　克彦】

〇愛知県岩倉市議会

取組は広報モニター単独でなく、議会サポーターとして議会運営等に関し、市民から意見聴取するシステムを取っていたが、サポーターを決める際の抽出や公募の仕方、また運用の仕方など参考になった。また、謝礼の件など具体的な話を聞くことができた。 サポーターから意見を聴取する用紙の選択項目に「議会広報について」の欄があるが、広報に関する意見は殆ど無いとのことであった。長与町では単独で広報モニターを設置しており、広報に関する事だけで様々な意見をいただけることは委員会にとって大切だと感じた。

〇愛知県瀬戸市議会

議会と学生との連携については、マッチングに一番苦労する。お互いメリットがあることが大切である。瀬戸市には市と近郊の５大学が出資してつくる「大学コンソーシアムせと」という団体が市や学校、その他の団体、大学のマッチングを行い、補助金まで交付する制度があることが一番のポイントである。今回議会はこの制度を使い、市外の大学とまちづくりについての連携事業を行っている。目標は「議会の見える化」「資質向上」学生側は「政治への参加」「地域課題を自らの問題とする」であるが、市議会議員が地域への思いを語るのに対し、学生は瀬戸市在住でないという状況で、どこまで本質に迫った活動ができたのか興味深かった。しかし、この活動を通して拾った声を、議員が実際の一般質問を行っているこ

とから、多くの学生が政治への参加意欲を感じている。連携実施に関しては相当な準備と学校側、教授、ゼミの協力と理解が必要であり、それをコーディネートできる議会側のやる気と人材も必要と感じた。

〇三重県四日市市議会

岩倉市議会と同様に公募と委嘱による議会モニターの制度があり、広報広聴に関する意見もここで取り扱っている。モニター委嘱後に研修を開催するなど、取組はとても積極的であると感じた。

当初の研修目的とは離れるが、議会報告会を 4 常任委員会ごとに開催するという独特の取組を行っている事を伺った。報告会の後半はシティ・ミーティングとして委員会ごとの専門テーマを設定し意見交換を行っている。常任委員会が中心となって 1 会場を運営するので、テーマの設定から事前準備まで専門性を活かしてできるのが強みのようだ。

【委員　吉岡　清彦】

〇愛知県岩倉市

⑴議会サポーター制度について

①人選については、100 名以内で、年代別に無作為に抽出された市民と、公募による市民。

②意見の反映については、議会内に周知している。

⑵市民参加の取組について

①議会報告会と意見交換会を合わせて実施している。

〇愛知県瀬戸市

⑴議会と学生の連携について

プロジェクト「届け　わたしたちの声・まちづくりの想い～若者の政治参加を目指して～」を実施

① 大学側のゼミの一環として取り組んだ。

② ２回目は大学側の都会で断られた。

③ 今後は高校生との交流も必要とのこと。

④ 中学生(子ども議会)との交流も必要とのこと。

〇三重県四日市

⑴議会モニター制度について

①モニターの活動について

・平成 16 年５月に「市議会モニター制度」を創設

・年１回モニターと意見交換を開催している。

②モニターの人選について

・定員は 50 人程度

・地域市民センターの館長に各々１～２名依頼。(24 地区)
・四日市大学に学生の推薦を依頼。５名程度。
・一般公募。１０名程度。

③モニターの意見について

・８月定例会で８件あった。

⑤ その結果について

・傍聴について
・市議会の広報広聴について
・四日市市民自治基本条例について
・市議会モニターについて

以上　それぞれ改善を行った。